



ベリーズ
Belize



小国ながら興味深い国 ベリーズ

橋口 道代

はじめに

ー「ベリーズ」をご存じですか？

「ベリーズ」の国名を聞いて、日本でどれだけの人が世界地図上で場所をあてることができるだろうか。正しい場所どころか、どここの地域に位置するかもあやふやな場合もあるかもしれない。カリブ海のブルーホールやユカタン半島のマヤ文明がテレビ等メディアで特集されることがあっても、ベリーズに結び付けられることは少ない。また、グアテマラなど、コーヒーの産地として日本で親しまれている中南米の国々もあるが、ベリーズにはそれもあてはまらない。そのため、ベリーズは日本人には馴染みがない国となっている。かく言う筆者も、国際協力機構（JICA）職員として、これまでに在外勤務や出張で45か国近

くを巡ってきたものの、ラテンアメリカ（中南米）との業務上の縁がほとんど無かったため、JICAベリーズ支所長としての勤務の話が持ち上がった時、ご多分に漏れず、「ベリーズ、どこ？」と、国の場所を地図上で確認する始末だった。

「ベリーズ」はこんな国

ー位置、大自然、言語、文化の多様性

このように、ベリーズ赴任前の筆者の予備知識はまことに粗末なものであったが、赴任した後、調べ、見聞きしていくうちに、小国ながら興味深い国であることが分かってきた。その一部をここでご紹介したい。

ベリーズは、中米北東部、ユカタン半島の付け根の部分に位置している。北にメキシコ、西にグアテマラと国境を接し、南東にはホンジュラス湾をはさんでホンジュラスがあり、東はカリブ海に面する。ベリーズの国土面積は四国の1.2倍ほどの大きさ（22,966km²）で、人口は約40万人。ベリーズの国土面積に近いエルサルバドル（21,040km²）は人口約600万人。エルサルバドルは中米で最も人口密度が高い国（313人/km²）といふから、ベリーズの人口の少な

さ、人口密度の低さ（約15人/km²）は比較にならない。

人口密度が低い分、ベリーズの大自然は大きな魅力である。変化に富み、観光客など多くの人々を引き付ける。また、海、陸ともに生物多様性やエコシステムも注目すべき点が多い。

ベリーズ国土のほとんどは熱帯雨林に覆われ、沼沢地も多い。ベリーズの国名は、マヤ語の「泥水」を意味することばから来ているとされているのは、このような自然



ベリーズの地図（提供：JICA）



南部の森林（写真はすべて筆者撮影）



北部の海岸

環境があるからであろう。海には、約 450 の島々と世界有数のサンゴ礁が形成されており、その美しさからベリーズは「カリブ海の宝石」と呼ばれている。また、内陸のマヤ山脈からは熱帯雨林の溪谷の中を、ベリーズ川をはじめとする河川が大きく蛇行しながら流れている。マヤの時代から 20 世紀に至るまで、川は内陸と海岸とを結ぶ物流の動脈であった。伐採したマホガニーやログウッドは川で運搬され、現在でも、サトウキビ産地近くを流れる川には、砂糖やモラセス(糖蜜)を海に向けて運ぶシュガーボートが行き交う。黄昏時に運よく出会うと、川沿いに広がる甘い香りを楽しむことができる。

ベリーズは中米では唯一、公用語を英語とする国である。北米(米国、カナダ)とは言葉の壁が無いこともあり、人の行き来がとても多い。乾期である 12 月から 4 月の観光シーズンには、米国からの定期便に加え、チャーター便やカリブ海クルーズ船で、厳寒の地から暖かい気候を求め、観光客が大挙して押し寄せてくる。学生達のフィールドトリップ先として選ばれることも多く、若者たちは大自然の中でのアドベンチャー体験を満喫している。また、北米のリタイア組には、ベリーズは移住地と

して人気で、快適な住居が並ぶリタイア村も所々に見られる。

小さな国土に、少ない人口のベリーズではあるが、地勢や民族構成、さらには言語や文化が多様である点は大きな特徴で、興味深い。民族構成としては、メスティーソが約 50%、アフリカ系黒人がルーツのベリーズ・クレオールが約 25%、その他にマヤ系先住民が約 10%、ガリフナ(黒人とカリブの混血)が約 6%、その他に中国系、インド系、ヨーロッパ系も居住する。国民のほとんどは英語もしくはクレオール(英語の方言)を話す。人口の約半分はスペイン語も話す。特に、ベリーズの北部にはメスティーソが多く居住しているため、スペイン語人口が多い。さらには、内陸部のマヤ族の居住地域ではマヤ語が、南部はガリフナ族の居住地域ではガリフナ語も使われている。小さな国土ながら、訪れる地域によって、異なる文化的な雰囲気を感じ取ることができる。

なぜ、ベリーズは英国植民地となったのか? -歴史の複雑さ

ベリーズは、かつては英領ホンジュラスと呼ばれ、1981 年 9 月に英国から独立した。今年で独立から 38 年、中南米で最も若い国である。元首を英国のエリザベ

ス女王とする英連邦に属する立憲君主制国家で、ベリーズ人の総督がその権限を代行している。身近なところでは、どの金額の紙幣も肖像はエリザベス女王であり、ベリーズが英国の植民地であったこと、英連邦に属する国であることを実感する。

では、なぜベリーズが英国植民地になったのか。スペインによるアメリカ大陸の植民地化が進められていた時代、ベリーズもグアテマラ総督府の管轄に組み入れられた。しかし、ベリーズが密林地域の彼方の辺境の地であったため、実質、グアテマラ総督の施政は及ばなかったという。一方、1650 年代以降、英国からは貴重な木材であるマホガニー、ログウッドの伐採やそれら木材の英国への販売を目的に、入植者が増加していった。その後、木材伐採は、長らくスペインと英国の争奪の対象となったが、英国からの入植者の増加が既成事実となり、英国は、ベリーズの自由使用をスペインに妥協させ、さらには 1798 年、英国の入植者がスペイン軍を破ったことで、事実上の英国植民地となった。そして、1862 年に正式にベリーズは英国の植民地と宣言された。

しかし、1821 年のグアテマラ独立の際、同国は英国のベリーズ支



蛇行する川



夜間も舟行するシュガーボート



サトウキビの輸送

配は不法占拠であり、スペイン統治時代のすべての権利をグアテマラが継承するとして、英領ホンジュラスの領有を主張した。この主張が、その後もグアテマラ・英国、さらにグアテマラ・ベリーズ間の領土問題の発端となっている。

ベリーズとグアテマラ間では、現在に至っても領土問題が継続しており、グアテマラはベリーズ南部の領有を主張している。グアテマラでの2018年の国民投票に続き、2019年6月にはベリーズでも国民投票が実施され、国際司法裁判所に領土問題の解決を委ねることが決定された。英連邦に属し、英語を公用語とするベリーズではあるが、グアテマラとの領土問題からも、複雑な歴史的背景が垣間見られる。

ベリーズから見た日本 ーベリーズからも遠い国？

日本人がベリーズを世界地図上で正しく示せないのと同様に、ほとんどのベリーズ人も日本の地理的位置を知らない。日本人は、道行く人々から「中国人か？」と尋ねられ、また、日本人であるとしても、中国語であいさつされることが多い。ベリーズ人にとっても、日本は遠い存在なのである。

ベリーズには、中国、台湾系の人々が多く、スーパーマーケットやレストラン等のビジネスを活発に行っている。特に、ベリーズは台湾承認国であり、在留台湾人の数が多い。近年では、減少気味にあるとのことだが、それでもベリーズ在留台湾人は約600人で、在留邦人数約50人と比較すると、はるかに大きな存在感がある。また、2019年はベリーズと台湾の外交関係樹立30周年にあたるこ

とから、文化交流や経済協力等の各種事業が幅広く実施されている。道路建設をはじめとするインフラストラクチャー事業、農業や医療分野への技術協力事業、治安維持に必要な機材の供与等々、事業の数も扱う分野の範囲も幅広く、ベリーズにおける台湾のプレゼンスを示している。

ベリーズとのパイプを太くするには ーJICA事業を通じて

ベリーズにおけるJICAの事業は、1999年の青年海外協力隊派遣から開始された。その後、2006年にはJICA研修へのベリーズ人研修生の受け入れ（研修員受入事業）も開始され、現在に至るまで、両事業をベリーズにおける二本柱として展開している。青年海外協力隊が15～20人の派遣規模、研修員受入が年間10名前後と、必ずしも大きい事業量ではないものの、JICAベリーズ支所としては、ベリーズの直面する課題「防災・環境」「格差是正」に対応すべく、

日々努力している。

2020年、青年海外協力隊派遣開始20周年を迎える。これまでの派遣累積は約190名。さらに、ベリーズ人帰国研修員の累計も約300名となっている。地理的に遠く、距離感を感じてしまう日本とベリーズであるが、ベリーズを経験した日本人の数、日本を経験したベリーズ人の数は、日本とベリーズのパイプを太くしていく上で、大きな人的アセットであると思う。

筆者としては、これまでの蓄積を大切にしつつ、ベリーズでの日々の業務を通じてベリーズの課題解決に取り組んで行くとともに、両国間のパイプを少しでも太くしていきたいと考えている。本通信をきっかけとして、日本の皆様にも、ベリーズに関心をもっていただければ幸いである。

（はしぐち みちよ 国際協力機構（JICA）
ベリーズ支所長）

